地域づくり

本編

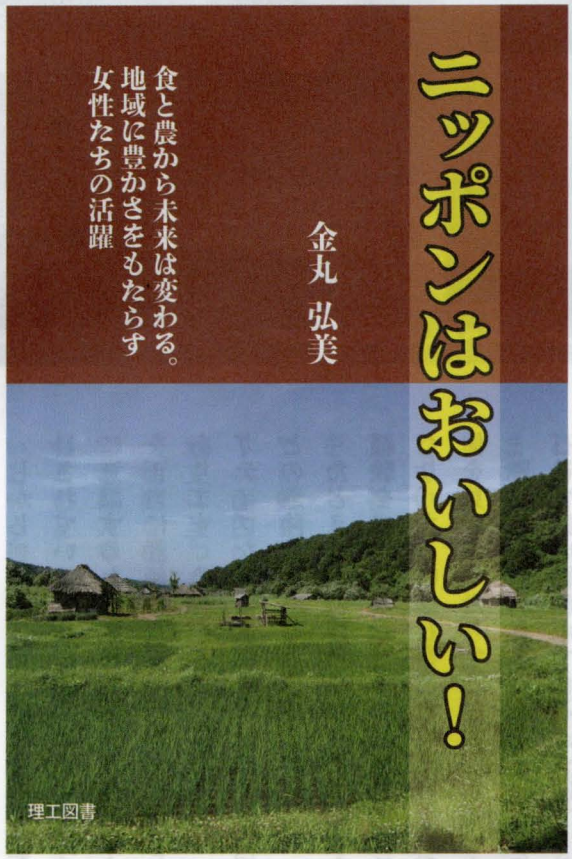
2024
12

ISSN1340-8917

特集　農業イノベーションによる地域づくり

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

ニッポンはおいしい！
～食と農から未来は変わる。地域に豊かさをもたらす女性たちの活躍～



金丸　弘美　著
理工図書（2024年9月18日発行）
定価：1,900円＋税

農業というと男社会で高齢者が多いイメージがある。だが、農産物を直接消費地に届けたり、加工品の製造・販売、観光など6次産業化に取り組んだりする地域が増える中、「食」に敏感で消費者目線に立った女性の活躍の場が広がっている。

本書は、農業をはじめとした1次産業に新たな風を吹き込む12人の女性を紹介している。

名古屋市中心部で毎週開催されるオーガニック農産物の朝市運営を担う女性は「有機農業で新規就農する人はたくさんいるが、販路がないから根付かない」という話を聞き、20年前に新規就農者限定で朝市を開始。今では大勢の常連客で混み合う朝市は就農希望者の相談の場にもなり、ここから多くの有機栽培農家が生まれた。

山口県の周防大島で、季節の地場産果実などを使って180種類のジャムを製造販売する女性は、かつて外に出たいとしか思っていなかった故郷に「宝物のような果物」があることに気づいた。カフェを兼ね、海が見えるおしゃれな店舗は、センスを生かし自ら企画。週末には島に渡ってくる本土の客でにぎわう。

山形県米沢市で野菜を栽培する新規就農の女性は、子どもら食べる側の視点から料理やレシピを提案。写真をブログに上げて食べ方を伝え、生産者と消費者の距離を縮めている。

ほかにも、「おいしい食体験ができる宿」を紹介する旅行サイトを運営し、農村ツーリズムを後押しする起業家、レストランが求めるヨーロッパ野菜を農家に栽培してもらう仕組みをつくった中小企業診断士、「もっと牛と酪農のことを知ってほしい」と牧場内に地域の旬の食材を利用したジェラート店をオープンした酪農家らが登場。いずれの女性についても、その発想力と行動力には目を見張る。対象に寄り添った著者の綿密な取材も、彼女らの仕事への情熱、地域への思いを引き出している。

登場する女性に共通するのは、既成概念にとらわれず、消費者目線から事業を組み立てられるしなやかな思考。海外経験がある人も多く、異文化体験を事業に生かしているのも印象的だ。

折しも「地方創生」が改めて脚光を浴びている。地方創生を実現するには農林水産業の成長が不可欠だし、地域に女性が生き生きと活動できる場があることが条件となる。新たな価値を見つける目を持つ女性にチャンスを与えれば、農山漁村はもっと魅力的になるのではないか。地域振興のヒントが詰まった本書を読んで、そんな思いを強くした。

（地域創生・情報広報グループ）